

# 國學院大學學術情報リポジトリ

## スポーツインターンシップの運営についての検討

メタデータ	言語: Japanese 出版者: 公開日: 2024-04-11 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: 備前, 嘉文 メールアドレス: 所属:
URL	<a href="https://doi.org/10.57529/0002000282">https://doi.org/10.57529/0002000282</a>

## 令和四年度人間開発学部学部共同研究成果報告

# スポーツインターンシップの運営についての検討

研究代表者 備前 嘉文

### 【研究テーマ】

スポーツインターンシップの運営についての検討

### 【研究代表者】

備前嘉文（國學院大學人間開発学部健康体育学科准教授）

### 【共同研究参加者】

町田樹（國學院大學人間開発学部健康体育学科助教）

〔研究分担〕 調査の補佐

### 【研究概要】

本研究では、「スポーツインターンシップ」の内容充実に向けて、①スポーツインターンシップの授業を通じてどのような能力が養われたかについて明らかにする、②受け入れ先企業がインターンシップに対して求める内容を明らかにする、③本学と同様にスポーツインターンシップを実施している他大学の運営体制についての情報を得ることを研究の目的とし、履修学生へのアンケート調査、協力企業三社へのインタビュー調査、三

大学の関係者へのインタビュー調査をそれぞれ実施した。

### 【研究成果】

①学生への調査（インターンシップに参加して身についた能力と大学での学修への影響）

令和四年（二〇二二）年十二月～令和五年（二〇二三）一月に、令和三年度（二〇二一年度）と令和四年度（二〇二二年度）にスポーツインターンシップを履修した学生を対象にアンケート調査を実施し、合計二十九名から回答が得られた。

インターンシップに参加して身についたと思う能力については、経済産業省が提唱する社会人基礎力の十二項目について質問を行ったところ、「規律性」、「傾聴力」、「状況把握力」が特に高い値を示した。また、大学での学修への影響は、ゼミの選択に関しては八二・七％、就職に対する意識に関しては八二・八％の学生が（あてはまる または とてもあてはまる）と回答し、多くの学生がスポーツインターンシップの履修を通

じて三年次以降の大学生活に役立てていることが明らかとなった。

## ② 協力企業への調査（受け入れ先が希望する内容の把握）

令和四年（二〇二二）十月～令和五年（二〇二三）一月に、現在「スポーツインターンシップ」で学生の受け入れに協力してくれている三つの企業（株式会社Cricao、<sup>(株)</sup>SVOLME、株式会社サンロッカーズ）の担当者にインタビュー調査を実施した。その結果、すべての企業からインターンシップの受け入れに対して、金銭的な見返りは期待していないとの意見が得られた。一方で、在学生への企業PRや、本学の教職員の紹介や共同事業の実施などを期待する意見が聞かれた。

## ③ 他大学へのヒアリング調査（運営体制の検討）

本学と同様に「スポーツインターンシップ」を実施している三つの大学（びわこ成蹊スポーツ大学・立命館大学・鹿屋体育大学）の関係者にインタビュー調査を実施した。大人数の学生をインターンシップに派遣している大学では、ゼミや演習の教員が中心となって派遣先などの相談を担当していることがわかった。インターンシップ中の大きな事故やクレームはこれまでに特に起きてはいないが、送り出す学生の質の担保は重要な課題であることが聞かれた。

## 【研究の展望（今後について）】

インターンシップを通じて学生が身につけた能力や大学での学修への影響に関しては、アンケート調査から良好な結果が得られた。このことから、今後も現在と同じような授業運営方法を継続していくことが望ましいと思われる。

一方で、企業の担当者から、学生を受け入れるにあたり、「どこまで教育に関わればよいのか？」といった疑問が寄せられた。現在本学の「スポーツインターンシップ」は二年生が対象であり、個人面談を行うとほとんどの学生が「スポーツ業界への就職には興味はあるが、まだ具体的な分野は決まっていない」と回答するのが現状である。

（株）SVOLMEでは、インターンシップを希望する学生に対して、志望動機や目標についての事前課題を課し、その内容によって参加の可否が決定される。現在も、毎年七月に外部からインターンシップの受け入れを担当する方にゲスト講師に来てもらい、インターンシップの意義などについての事前講義を実施しているが、今後もさらに事前教育に力を入れたい。

※國學院大學人間開発学会第十五回大会（令和五年十一月十一日、於國學院大學たまプラーザキャンパス一〇一教室）第四部「令和四年度人間開発学部学部共同研究成果報告」において、研究代表者の備前嘉文（國學院大學人間開発学部健康体育学科准教授）が口頭報告と質疑応答を行った。



## 調査結果

### ③受講経験者へのアンケート調査

#### ●今後の大学での学修への影響

